



できごと

3/5(日)、6(月)の2日間、「児童図書館研究会」の全国学習会が浜松市で開かれました。「児童図書館研究会」は、児童図書館に関わる研究を行い、子どもの読書環境の充実発展をはかることを目的に活動している団体です。北は北海道、南は沖縄から、図書館員、文庫関係者等、子どもの文化、子どもの本、子どもを知ろうという人々が集まりました。「読む力を育てる」をテーマに、講演や分科会、夜のお楽しみ会(わらべうた等)まで、それぞれ熱心に学びました。講師陣も多彩で、参加者からは、どこも興味深い内容ばかりで、なかなか出席する分科会を決めることができなかつたとの声も聞かれました。(学習会の内容は裏面で紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「雨の本」(4月末まで)
「こどものとも 復刻版を中心に」
新着図書も常時展示中です。

イベント情報

「赤ずきんと名作絵本の原画たち」
トローズドルフ絵本美術館展

会期: 4月22日(土)~5月28日(日)
会場: 刈谷市美術館
(JR・名鉄三河線「刈谷」駅下車徒歩10分)
時間: 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日: 月曜日、祝日の翌日、館内整備日
入館料: 一般800円、高大生600円、
中学生以下無料、20名以上団体割引有
問合せ先: 刈谷市美術館(TEL0566-23-1636)

新着図書から

絵本

『はらぺこライオン』



ギタ・ウルフ/ぶん
インドラブラミット・ロイ/え
酒井公子/やく
アートン
2005年11月

あるとき、ライオンのシンガムは、狩をしないで獲物を得ようとする。しかし、獲物のズメ、こひつじ、シカに次々と騙され、結局何も食べられなかつたという愉快なインド民話。

民族工芸品を連想させる絵は、訳者あとがきからインド西部に住むワルリー族に古くから伝わるワルリー画の画風ということ。印象的な絵と楽しい話、テンポ良く進むストーリーとがうまくからみ合い、引き込まれる。『1・2・3インドのかずのえほん』に続くアジア・アフリカ絵本シリーズ第2弾。【5歳くらいから】(殿岡)

物語

『顔をなくした少年』



ルイス・サッカー/著
松井光代/訳
新風舎
2005年12月

ちょっと不良のかっこいい同級生の仲間になりたいと思う主人公デーヴィッドは、おばあさんの杖を盗むいたずらに手を貸してしまう。「自分をしっかり持ちなさい。いやなときは、はっきり「ノー」と言いなさい。それで友だちがあなたをきらいになったら、そんな人は本当の友だちじゃありません」と言われ、杖を取り戻そうと友だちに戦いを挑む。おばあさんから呪いをかけられ、悪戦苦闘している姿がいじらしく、淡い恋心も微笑ましい。本当の勇気とは何かと考えさせられる。【小学校中学年から】(栗山)

学 習会の主な内容は次のとおり。 基調講演「読む力は生きる力」講師：脇明子氏（児童文学者） 第1分科会「絵本から物語へいざなう」講師：小寺啓章氏（兵庫県太子町立図書館長） 第2分科会「ファンタジーの素晴らしさを伝える」講師：斎藤惇夫氏（児童文学者） 第3分科会「科学読物のおもしろさを伝える」コーディネーター：市川美代子氏（科学読物研究会）パネリスト：飯野寿雄氏（ハッピーオウル社）・後路好章氏（アリス館）・浦城信夫氏（さ・え・ら書房） 第4分科会「書評と解題を書く」講師：張替恵子氏（東京子ども図書館） 第5分科会「学校図書館と公共図書館の連携を学ぶ」助言者：近藤洋子氏（元名古屋市図書館）実践報告：林美紀氏（石川県白山市松任図書館）・水澤祐子氏（さいたま市立北浦和図書館） 特別講演「今、子どもの本にできること」講師：清水真砂子氏（児童文学者）

第 4分科会「書評と解題を書く」の受講生は、事前に課題図書『遊んで、遊んで、遊びました』を読み、ブックトーク風の文章（字数制限なし）と書評（1100字程度）解題（120字）2点の計4点を提出して参加した。

受講生の自己紹介の後、講師より、図書館における書評・解題について伺った。書評を書く前段階として、「紹介するに値する本を選ぶことが重要である」と述べられ、土台となるレビュースリップの大切さを、東京子ども図書館で実際に使用されている様式を利用して説明があった。また、書評と解題の違いは長さのみであって、むしろ、一般読者向き（短所を書かない）専門家向き（類書と比較し長短を述べる）といった対象による違いがあるとのことであった。

書 評の書き方については、受講生に提出課題をその場で読ませ、課題図書の内容にも触

れながら、「表記は正確に」「この本はという言葉 avoids」「段落を大切に」「批判を中心とするか、評価を中心とするかを決めて書く」など、具体的に話をされた。概要は参考文献として挙げられた「図書館における書評（一）（二）」（『こどもとしょかん』22、23号 当館所蔵）にも詳しく載っており、一読をお薦めする。そのほか、東京子ども図書館の機関誌『こどもとしょかん』掲載の解題について、最初の原稿と掲載された原稿の比較など、実例も紹介された。

分 科会の中で印象に残った講師の言葉を幾つか紹介したい。「その本を見ていない人に分かるように書く。」「生活を楽しみ、アンテナを張って、よい言葉や表現を拾う。」「2倍書いて半分に縮める。」「客観性に留意するあまり無味乾燥にならないように。」等々。

講義を受け、自らの解題を見直すとともに、選書にもより留意し、皆様にもっと役に立つ情報をお届けしたいとの気持ちを新たにしました。

所蔵資料から

研究書 『遊んで、遊んで、遊びました』



リンドグレンからの贈りもの』
シャスティーン・ユンググレン / 著
うらたあつこ / 訳
ラトルズ
2005年11月

『長くつ下のピッピ』をはじめ、数多くの作品で世界中の人々に愛されているスウェーデンの児童文学作家アストリッド・リンドグレン。どうすれば彼女のように世界中の子どもたちから愛される本を書けるのかを知りたいと、ジャーナリストである著者は、1992年、84歳のリンドグレンをその自宅に訪ね、インタビューをした。リンドグレンの温かな人柄やその幸せな子ども時代の思い出を、本人の生き生きとした言葉を交えて話し言葉で伝える。写真や挿し絵も豊富で読みやすい。【中学生から】

（鈴木）

* 表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。